

## 「中四国地区青少年教育施設連絡協議会職員研修会」

### 1 趣 旨

- ・中四国地区青少年教育施設連絡協議会を構成する教育施設職員が一堂に会し、研修と交流を深めることを通して、各施設の機能の充実と発展を図り、未来を担う青少年の健全育成の推進に資する。

### 2 事業の概要

(1) 期 日 平成28年1月27日(水)～29日(金)【2泊3日】

(2) 講 師 基調講演 「社会を生き抜く力の育成～心を育てる体験活動～」

明治大学経営学部専任教授 星野 敏男 氏

「体験活動を充実させる教材・教具について」

コーディネーターNPO法人国際自然大学校 桜井 義維英 氏

(3) 参加者 33名(社会人33人) ※募集60名

(4) 研修内容

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1月27日(水)	☆昼食は希望者のみ						受付	開会式	基調講演			事務連絡等	夕食 ・浴 ・休憩	神楽上演	入浴 ・休憩	就寝
1月28日(木)	起床	朝の つどい	清掃・ 休憩 朝食	研修 1 地域と連携した プログラム開発の実際 (パネルディスカッション)		昼食 ・ 休憩	研修 2 自然環境を活かした プログラムの実際 (歩くスキーor 自然観察)			夕食 の つどい	入浴 ・ 休憩	情報交換会		入浴 ・ 休憩	就寝	
1月29日(金)	起床	朝の つどい	清掃・ 休憩 朝食	身辺 整理	研修 3 体験活動を充 実させる教材 教具について	ま と め	閉 会 式	☆昼食は希望者のみ								

### 3 成果と課題

《成 果》

- ・「地域の自然・教育資源の活用」というコンセプトのもと、1日目の明治大学・星野敏男氏からの基調講演において体験活動の重要性を確認し、2日目以降の研修1～3で参加者がより具体的にテーマに迫ることができるような構成とした。参加者からは「自分たちの地域にも、たくさんの教育資源があることを再確認することができた。」「それぞれの施設で活用できる要素がたくさんあった。」という声が多く寄せられた。理論から実践へという一連の流れを短期間で研修していく上で今回の流れは有効であった。

- ・研修1「地域と連携したプログラム開発の実際」では、パネルディスカッションを行った。本所が実施している地域連携プログラムに関わっている地域の方にパネリストとして参加していただいたことにより、開発の経緯やプログラム運営に関わる実情を生々の声で参加者に伝えることができた。
- ・研修2「自然環境を活かしたプログラムの実際」では、三瓶の自然環境を活かしたプログラム体験として、冬の自然観察（かんじきハイキング）と歩くスキーの2コースを設定し、選択できるようにした。参加者の多くは青少年教育施設職員であり、体験を通して、プログラム指導の在り方について交流し合う機会となった。
- ・研修3「体験活動を充実させる教材・教具について」においては、NPO法人国際自然大学校・桜井義維英氏にコーディネーターを務めていただき、体験活動を充実させる教材・教具の在り方について研修を行った。複数の教材メーカーとタイアップしたことで、実物を交えて参加者に教材・教具の特性を掴んでもらうことができた。また、安全性という視点から、教材・教具の在り方を見直す機会となった。
- ・三瓶地域の文化活動に触れてもらうためのアトラクションとして、地元の神楽団を招き、神楽上演を行った。神楽団には地元の中学生も加入し活動しており、三瓶地域において伝統文化が脈々と継承されている姿を参加者に伝える場となった。

#### 《課題》

- ・プログラム体験の選択コースとして、歩くスキーを設定したが、今回初めて歩くスキーをした参加者も多く、事前の準備や安全面で不安を感じた参加者もあった。そういった声を実際に指導にあたる外部の研修指導員にも伝え、今後の歩くスキーの指導に活かしていきたい。
- ・研修1のグループ協議では、活発な意見交換が行われたため、「もう少し協議のための時間が欲しかった。」という感想もあった。次年度本事業は他会場での実施となるが、参加者が主体的に研修に参加し、学ぶことができるよう時間的にもゆとりを持たせた研修となるよう、次回開催施設に引継ぎを実施していく。



(担当：企画指導専門職 大隅 雅浩)